



子ども平和新聞

ピースアクションinナガサキに参加したあと、ふりかえりをまとめよう。

日付: 2026年8月8日~10日

学年: 小学4年生

名前: 酒井 和真



大切な人を失いたくないので 戦争原爆は絶対反対です

“

心に残ったこと



ぼくもかよこさんと同じ8月生まれです。誕生日に行きたくない気持ちで行った学校で原爆にあい、死んでしまったこと、腰から下は見つからなかったこと、学校を休んでいればお母さんとはなれはなれにならなかったのかな、と考えてとても心に残りました。

”



↑ 被爆当日の
浦上川の様子

爆心地で
お祈り →



平和式典に参加 ↓



原爆の大きさ ↑



“

平和について考えたこと



もくとうの時間は長く、残された家族の気持ちはどんなだろうと考えていました。ぼくなら家族が死んだら生きていけません。たった1つの原爆で町中の一人ひとりがそんなことになりました。原子爆弾は絶対にダメだと思います。

”



わたしの平和宣言

ぼくには戦争を止める力はないけど、友達や家族を大切に
して自分の周りの平和を守りながら大人になりたい





子ども平和新聞

ピースアクションinナガサキに参加したあと、ふりかえりをまとめよう。

日付: 2026年8月20日

学年: 小学4年生

名前: 村上陽菜



核兵器のない世界に



“

心に残ったこと



核兵器はまだ1万2000ほどもあることを知りました。アメリカ、ロシア、中国などの国はまだまだ多くの核兵器をもっています。この世界にいる人々と核兵器をなくしたいです。

”



“

平和について考えたこと



やっぱり核兵器がなくなればこの世界は平和になると思います。これから次の世代に核兵器をなくすためにきょうよくしてあげながら平和を守りつづけていきたいです。

”



わたしの平和宣言

全世界でのせんそうをなくすべきだと思います。ちかう国の人ともなかよくし、きもちをわちあえる人がふえればもう二度とせんそうはおこらないと思います。



子ども平和新聞

さかいがく

2026年8月25日

4年



山王神社とりい

これは、半分に、な
たとりいです。なぜかと
とげんばくでなりました。
ばくしんちからやく800メー
ルになりました。ばくふうでは
んぶんがなくなりました。

これが広島県にお
ちたりトルホーイとやらげん
ばくの1つ。



これは、長崎県に
ふとされた、げんばく
ファットマン。このほうが
いりやくはつよかった。





平和祈念式典
のときの平和ソングのしゃ
いん。平和ソングがむい
ているほうこうは、ばく
しんち中バ。

心にのこったこと

げんばくのことや
ほうしゃせんでび
うきでくるしんでい
る人がいることがわ
かった。

平和について。

平和は、自由に
争いがない、ゆたか
なこと戦争など
人しんとの争いがない
こと。

ぼくの平和せんげん。

ひかく三げんそくをまもって、いつまでも、
平和をずっといつまでもつづけたい。



子ども平和新聞

日付 2026年8月25日

学年 小学6年

名前 酒井大地

好きなスポーツ

サッカー



「原爆はどれだけの人の未来や希望、命を奪ったのか
を思い、戦争のない世界を守りたい」



心に残ったこと
僕が心に残ったことを紹介します。

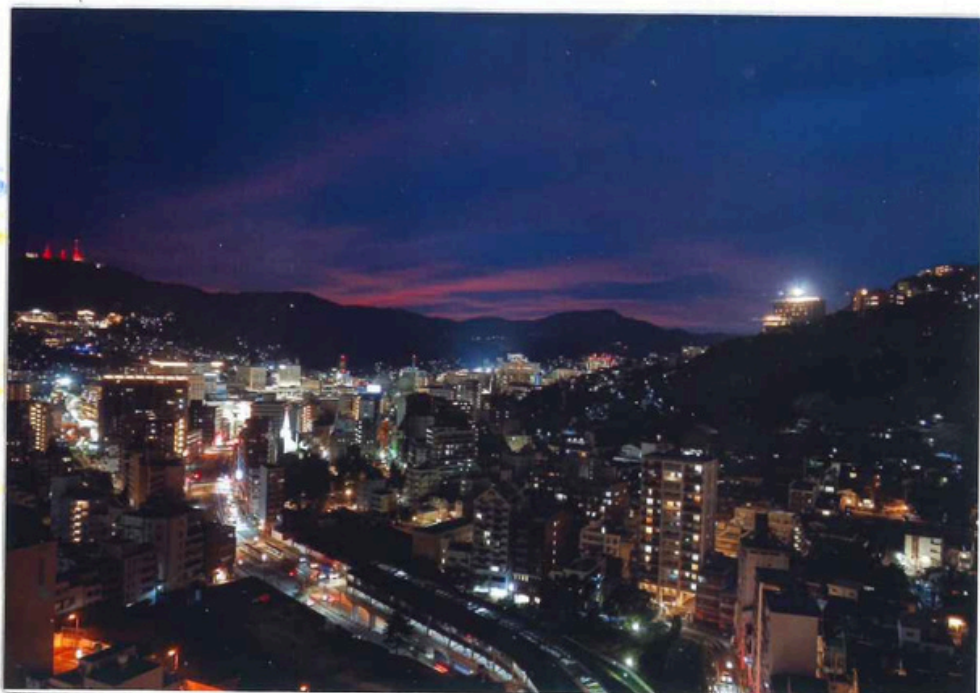


出島

出島は日本初の
本格的な人工島で、今
は川の工事などで
埋められました。
建造目的は、長崎
市内にちがっていた
ポルトガル人を収容し、
キリスト教の布教を
しめることが
かんじることだった。

夜景

この夜景は、町工場の夜景
である長崎市夜景を
見ると、遠くから、
稲佐山から見た景色
ではないのですが、
とてもきれいです。
特に、おくのびっけの
夕焼けがきれいです。



平和について
考えたこと

僕にとって平和
とは、毎日の生活
(当りの生活)も
よくれていることな
ります。
なまじい、何もい
ない人々も戦争
の世の中よって命
を落とす、なにがな
いのか、かわかる
からです。



新庄火暴クスバ
新庄火暴クスバとは、山王神社
にある大きな木のことで、
この木は新庄戦争当時
燃え残った木でした
が、長崎の復興と共に
人知れずの成長(つぼみ)
をいって今のすがたに
なりました、とても大きい。

長崎平和新急式典

長崎平和新急式典とは、
今年で新庄戦争50周年
長崎原爆犠牲者慰霊
平和新急式典による献花
をなくする式典です。
僕は、新庄戦争が起きた
核兵器は「絶対悪」で
あることをババに教わった
頭の上にはかぶる、味方。



ぼくの平和を
戦争はもう二度
と来ないといけ
ない。その当りの
生活が当り前では
なくなるといふこ
とは、うまいと聞く
ことだともうある。
この戦争で亡くなった
人々を、人々の代りへ
パトロールしていま
いと思いました。

まとめ

この長崎へ行く方経験地には、この戦争の人生でも、人は悲しい
出来事がある。なにも忘れないように生活したいです。また、
核兵器があることを覚悟して使ったり、本気で落ち目を出さうというので驚いて
います。長崎、空港ではサッカー日本代表監督の森保監督に
ようこそでした。